

令和 8 年度 第 2 回 京都大学大学院人間・環境学研究科 修士課程入学試験問題

## 専門試験

科目名：041.認知・行動・健康科学

(注意) 複数の設問がある場合、解答は、設問（ローマ数字のⅠ、Ⅱ……）ごとに別の解答用紙を用いること。  
ただし、設問の中で解答用紙に関して別途指定がある場合は、それに従うこと。

**設問Ⅰ [基礎問題].** 問 1 から問 11 までの 11 問から 1 問を選択して 解答せよ。  
選択した問番号を解答用紙に明記すること。 特に指定がない限り、解答は日本語または英語で行うこと。

問 1 下記の間についてすべて答えよ。必要なら図を使ってもよい。

- (1) 心理物理学 (psychophysics) でよく知られた Weber の法則 (Weber's law) と Fechner の法則 (Fechner's law) をそれぞれ説明せよ。また、この 2 つの法則の間について説明せよ。
- (2) 反射性眼球運動 (reflexive eye movement) は 2 種類に分類できると言われている。①これらは何と呼ばれているか、その名前を記せ、②それぞれの眼球運動の生起メカニズムを説明せよ、③これら 2 種類の眼球運動は相補的に機能すると言われているがその仕組みを説明せよ。
- (3) 視覚探索 (visual search) の研究では、文脈手がかり効果 (contextual cueing effect) という現象が知られている。①文脈手がかり効果とはどのような現象であるか説明せよ、②文脈手がかり効果における「文脈」に関してどのようなことが明らかにされているか具体的な研究を 2 つ以上挙げよ、③文脈手がかり効果と眼球運動の関係について説明せよ。
- (4) 視覚性短期記憶 (visual short-term memory) の容量 (capacity) を推定するための実験方法を説明せよ。用いる実験課題の名前、具体的な方法、および得られたデータから容量を推定する手順を説明すること。

問 2 下記の間についてすべて答えよ。

- (1) 心理的安全性 (psychological safety) の概念を説明し、組織における効果について、既存研究の知見を踏まえて述べよ。
- (2) トロッコ問題 (trolley problem) とは何かを説明し、人がどのように道徳的意思決定を行うかについて述べよ。
- (3) 自己奉仕バイアス (self-serving bias) とは何かを説明し、日本におけるその特徴について、他文化との比較を踏まえて述べよ。
- (4) 慈悲的 (好意的) 性差別 (benevolent sexism) とは何かを説明し、その特徴と問題点について述べよ。

令和 8 年度 第 2 回 京都大学大学院人間・環境学研究科 修士課程入学試験問題

## 専門試験

科目名：041.認知・行動・健康科学

(注意) 複数の設問がある場合、解答は、設問（ローマ数字の I、II……）ごとに別の解答用紙を用いること。  
ただし、設問の中で解答用紙に関して別途指定がある場合は、それに従うこと。

問 3 下記の問題にすべて答えよ。

- (1) ボトムアップ型の注意 (bottom-up attention) とトップダウン型の注意 (top-down attention) とは何かを説明し、それぞれについて、検討するための具体的な実験手続きを述べよ。必要ならば図を使ってもよい。
- (2) 速さと正確性のトレードオフ (speed-accuracy trade-off) について、①どのような現象であるかを説明し、②速さと正確性のトレードオフが生じることの問題点、③このトレードオフが生じないようにする工夫、④トレードオフが生じてしまった場合にデータをどのように扱うべきかについて述べよ。
- (3) 外界を把握するための認知メカニズム (cognitive mechanism) は、暮らしている環境によって異なるという証拠が得られている。どのような違いが見られるかを説明し、それらの差異が生じる原因として考えられるものについて述べよ。
- (4) これまで、情動状態 (emotion) を測定するためのいくつかの方法が提案されている。これらの方法について 3 つ以上挙げ、それぞれについて、測定方法と得られる指標、および長所と短所について述べよ。

問 4 システム脳科学 (systems neuroscience) に関する下記の問題にすべて答えよ。

- (1) 海馬 (hippocampus) には、歯状回 (dentate gyrus)、CA1、CA3 という領域がある。これらの位置関係を図示せよ。
- (2) (1)の領域を信号がどのように伝搬するのは、膜電位イメージング (voltage imaging) によって描出できる。膜電位イメージングの計測原理について説明せよ。
- (3) 海馬の場所細胞 (place cell) とは何か。以下のキーワードをすべて使って説明せよ。  
[キーワード：認知地図 (cognitive map)、発火率 (firing rate)、学習 (learning)、アロセントリック (allocentric)、対称性 (symmetry) ]
- (4) 場所細胞と格子細胞 (grid cell) の関係を図を使って説明せよ。
- (5) 海馬で計測されるシータ波 (theta wave) の発生機序を説明せよ。

令和 8 年度 第 2 回 京都大学大学院人間・環境学研究科 修士課程入学試験問題

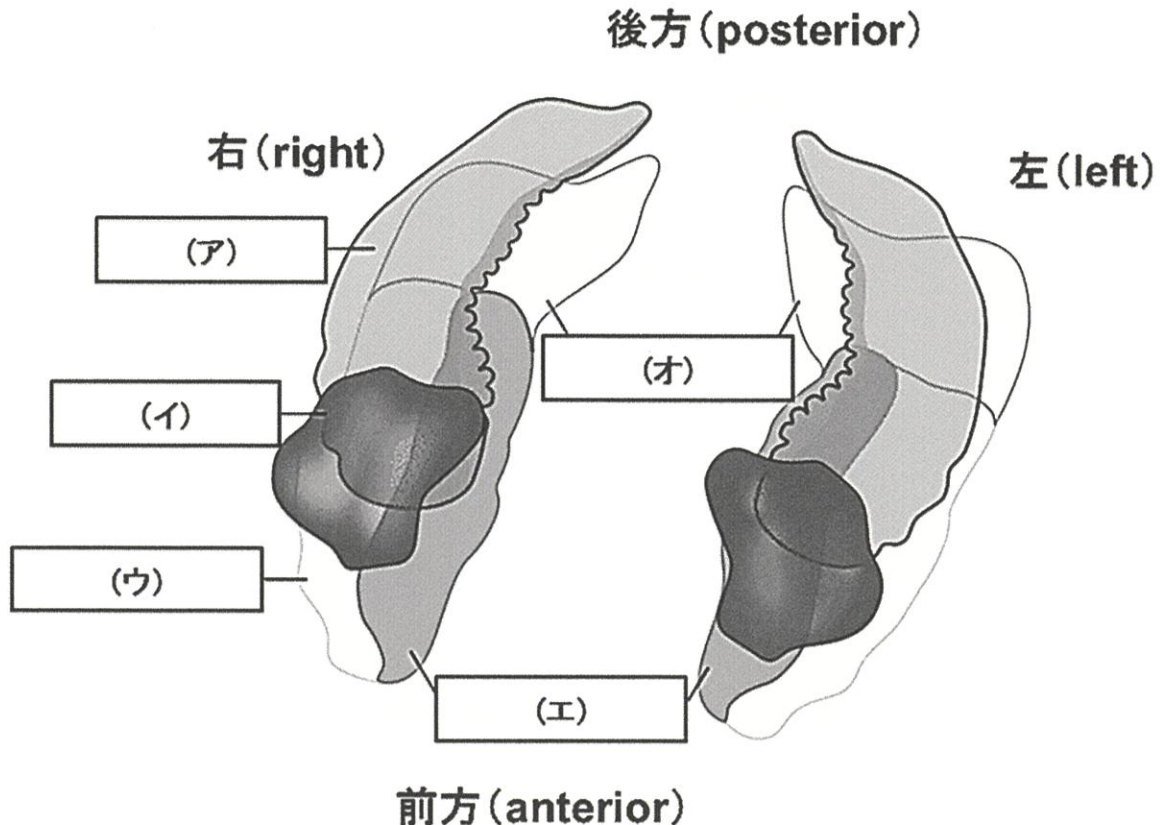
## 専門試験

科目名：041.認知・行動・健康科学

(注意) 複数の設問がある場合、解答は、設問（ローマ数字の I、II……）ごとに別の解答用紙を用いること。  
ただし、設問の中で解答用紙に関して別途指定がある場合は、それに従うこと。

問 5 下図は、ヒトの脳の左右の内側側頭葉 (MTL: medial temporal lobe) の構造を模式的に示した図である。これについて、ヒト認知神経科学 (cognitive neuroscience) の観点から、下記の問にすべて答えよ。

- (1) 下図の (ア) ~ (オ) のそれぞれの脳領域 (brain region) の解剖学的 (anatomical) 名称を答えよ。
- (2) ヒトのエピソード記憶 (episodic memory) において、(ア)、(ウ)、(エ)、(オ) の領域はそれぞれどのような役割を担っており、かつこれらの領域が互いにどのように機能的に関連しているのかについて、先行研究の例を用いて説明せよ。説明の際には、図を用いてもよい。
- (3) ヒトのエピソード記憶において、(イ) の領域はどのような役割を担っており、その他の領域と関連してどのような機能を担っているのかについて、先行研究の例を用いて説明せよ。



Raslau et al. (2015)より改変

令和 8 年度 第 2 回 京都大学大学院人間・環境学研究科 修士課程入学試験問題

## 専門試験

科目名：041.認知・行動・健康科学

(注意) 複数の設問がある場合、解答は、設問（ローマ数字の I、II……）ごとに別の解答用紙を用いること。  
ただし、設問の中で解答用紙に関して別途指定がある場合は、それに従うこと。

問 6 筋紡錘 (muscle spindle) の解剖学 (anatomy) と機能 (function) について、下記の問にすべて答えよ。解答にあたっては図表を使っても構わない。

- (1) 筋紡錘の被膜 (capsule) 内の筋線維 (muscle fiber) を錘内筋線維 (intrafusal muscle fiber) と呼び、骨格筋 (skeletal muscle) の大部分を構成する一般の筋線維を錘外筋線維 (extrafusal muscle fiber) と呼ぶ。錘内筋線維と錘外筋線維の解剖学的な差違を説明せよ。
- (2) 筋紡錘から発する Ia 群線維 (group Ia fiber) と II 群線維 (group II fiber) の解剖学的差違と機能の差違を説明せよ。
- (3) 錘内筋線維は錘外筋線維と同様に運動神経 (motor nerve) の支配を受ける。前者は  $\gamma$  線維 (gamma fiber)、後者を  $\alpha$  線維 (alpha fiber) と呼ぶ。 $\alpha\gamma$  連関 (alpha-gamma coupling) について説明せよ。
- (4) 錘内筋線維には、核袋線維 (bag fibers) と核鎖線維 (chain fibers) がある。核袋線維と核鎖線維の解剖学的差違と機能の差違を説明せよ。
- (5) ヒトのヒラメ筋 (soleus muscle) は、筋紡錘の密度が高い。その理由を説明せよ。

問 7 下記の問にすべて答えよ。解答にあたっては図表を使っても構わない。

- (1) 身体の姿勢安定 (postural stability) にはさまざまな感覚器 (sensory organs) が寄与する。身体が静止した状態 (static condition) において機能すると考えられる感覚器を列挙し、それぞれの機能と特徴を説明せよ。
- (2) 身体が重力軸 (gravity axis) に対して傾斜した時 (tilted condition)、いくつかの感覚器が機能することにより身体の傾斜が知覚される様子を、直立した時 (upright condition) との違いがわかるように説明せよ。
- (3) 頭部 (head) と眼球 (eye ball) を連動させ、視線 (gaze) を視覚対象物へと素早く移動させる際、頭部の方向、眼球の方向、視線方向は時間経過とともに協調的な変化 (cooperative change) を示す。この時系列的変化 (time series change) の特徴を説明せよ。
- (4) 中枢神経系 (central nervous system) は複数の感覚情報にもとづいて、自己の運動と環境の変化とを識別することができる。このような機能を可能とするしくみについて、実際の場面を想定しながら説明せよ。

令和 8 年度 第 2 回 京都大学大学院人間・環境学研究科 修士課程入学試験問題

## 専門試験

科目名：041.認知・行動・健康科学

(注意) 複数の設問がある場合、解答は、設問（ローマ数字の I、II……）ごとに別の解答用紙を用いること。  
ただし、設問の中で解答用紙に関して別途指定がある場合は、それに従うこと。

問 8 身体運動の制御と学習 (motor control and learning) について、下記の間についてすべて答えよ。必要であれば図を用いてもよい。

- (1) 目標物 (target) に手先を到達させる腕到達運動 (reaching movement) の制御における、不良設定問題 (ill-posed problem) とは何か。以下のキーワードをすべて使って説明せよ。  
[キーワード：位置 (position)、関節角度 (joint angle)、筋活動 (muscle activity)、冗長性 (redundancy) ]
- (2) 身体を適切に制御するために、脳 (brain) は内部モデル (internal model) と呼ばれる 2 種類の力学モデル (dynamical model) を持つと考えられている。これら 2 つの内部モデルについて、違いが明確にわかるように、以下のキーワードをすべて使って説明せよ。  
[キーワード：順モデル (forward model)、逆モデル (inverse model)、関節トルク (joint torque)、関節角度 (joint angle)、運動指令 (motor command)、予測 (prediction) ]
- (3) 運動学習について、不良設定問題および内部モデルと関連づけて説明せよ。なお、(1)(2)で述べた内容を繰り返すだけの説明にならないように留意すること。

問 9 下記の間についてすべて答えよ。

- (1) 自閉スペクトラム症 (autism spectrum disorder) と注意欠如多動症 (attention deficit/hyperactivity disorder) の関係性について知るところを述べよ。
- (2) 場面緘黙 (selective mutism) について、特徴と背景、配慮すべき点、その後の経過について知るところを述べよ。
- (3) 発達性協調運動症 (developmental coordination disorder) は運動面に課題があるが、精神疾患の診断分類である DSM (diagnostic and statistical manual of mental disorders) で定義されているのはなぜか、考察せよ。
- (4) 障害者差別解消法 (law for the elimination of discrimination against persons with disabilities) について知るところを述べよ。

令和 8 年度 第 2 回 京都大学大学院人間・環境学研究科 修士課程入学試験問題

## 専門試験

科目名：041.認知・行動・健康科学

(注意) 複数の設問がある場合、解答は、設問（ローマ数字の I、II……）ごとに別の解答用紙を用いること。  
ただし、設問の中で解答用紙に関して別途指定がある場合は、それに従うこと。

問 10 下記の問にすべて答えよ。解答にあたっては図表を使っても構わない。

- (1) 健康づくりのために推奨される身体活動・運動の基準 (physical activity and exercise guidelines) について、成人 (20 歳以上 65 歳未満) と高齢者 (65 歳以上) の推奨内容を比較しながら説明せよ。その際、以下の観点を必ず含めること。
  - 運動の種類 (type of exercise)
  - 運動強度 (exercise intensity)
  - 1 回あたりの時間 (duration per session)
  - 頻度 (frequency)
  - 実施上の留意点 (precautions for implementation)
- (2) 運動時の骨格筋における ATP 再合成 (ATP resynthesis) に関与する 3 つのエネルギー供給系 (energy systems)、すなわち ATP-CP 系 (ATP-creatine phosphate system)、解糖系 (glycolytic system)、および有酸素系 (oxidative system) について、それぞれの特徴を説明せよ。
- (3) 運動能力 (exercise performance) の個人差には遺伝的要因 (genetic factors) が関与することが知られている。この個人差を生む代表的な遺伝子多型 (gene polymorphisms) を 1 つ挙げ、運動能力に及ぼす影響について説明せよ。

問 11 次の説明文を読んだうえで、下記の問にすべて答えよ。

ヒトのエネルギー代謝 (energy metabolism) は、複数の臓器 (organs) が役割分担しながら協調して維持されている。食事によって摂取した栄養素 (nutrients) は、消化吸収 (digestion and absorption) 後に体内で利用 (utilization)・貯蔵 (storage) され、状況に応じて動員 (mobilization) される。また、その調節にはホルモン (hormones) などの体内の情報伝達 (signaling) が関わる。栄養 (nutrition) と代謝を理解するためには、どの臓器が何をしているかを整理し、食事が体内の代謝にどう影響するかを説明できることが重要である。

- (1) エネルギー代謝に関わる臓器を 4 つ以上挙げ、それぞれが担う役割を説明せよ。
- (2) 食前 (fasted state) と食後 (fed state) で体内の代謝状態 (metabolic state) が切り替わる仕組みを、ホルモン、特にインスリン (insulin)、グルカゴン (glucagon)、インクレチン (incretins) の働きを中心に説明せよ。
- (3) 食生活の工夫 (例：間食を減らす、野菜を増やす、主食量を調整する) がエネルギー代謝に与える影響を説明せよ。

令和 8 年度 第 2 回 京都大学大学院人間・環境学研究科 修士課程入学試験問題

## 専門試験

科目名：041.認知・行動・健康科学

(注意) 複数の設問がある場合、解答は、設問（ローマ数字のⅠ、Ⅱ……）ごとに別の解答用紙を用いること。  
ただし、設問の中で解答用紙に関して別途指定がある場合は、それに従うこと。

**設問Ⅱ [発展問題].** 問 1 から問 11 までの 11 問から 1 問を選択して解答せよ。  
希望する研究室の専門に関連する問を選択することが望ましい。 選択した問番号を解答用紙に明記すること。 特に指定がない限り、解答は日本語または英語で行うこと。

**問 1 [齋木研究室の専門関連問題]**

下記の問に答えよ。必要なら図を使ってもよい。

近年の視覚記憶 (visual memory) 研究においては、記憶のバイアス (bias) の問題が注目されている。中でもカテゴリーバイアス (category bias)、アンサンブルバイアス (ensemble bias)、系列依存性バイアス (serial dependence bias) については盛んに研究が行われている。これらの中から 1 つを選び、①具体的なバイアスの内容、②具体的な実験方法、③主な結果、④その研究が持つ意味、を説明せよ。

**問 2 [内田研究室の専門関連問題]**

下記の問にすべて答えよ。

- (1) 文化を扱う際、心理学では文化を個人レベルの差 (指標) として便宜的・統計的に扱うことがある。しかし文化は本来、メゾ (集団・制度・組織) あるいはマクロ (社会・歴史・生態) レベルの現象でもある。この点を踏まえ、心理学においてどのような研究計画を立てれば、メゾレベル/マクロレベルの文化の理解に迫れると考えるか。具体的な研究デザインを少なくとも 1 つ提案し、関連する先行研究にも言及しながら論述せよ。
- (2) 喜びや不安などの感情が個人を超えてグループ内で共有されるプロセスについて、どのような観点から心理学的研究を行うことが可能であると思うか。具体的な研究例や感情理論を取り上げながら論述せよ。
- (3) 米作と麦作、あるいは漁業・狩猟採集などの生業を促進する生態学的環境 (socio-ecological environment) が、心の働き、特に対人関係に関する認知や情報処理にどのような影響を及ぼすかについての先行研究を 2 つ以上説明せよ。その上で、こうした研究において未解決の問題は何であると考えられるかを論述せよ。

令和 8 年度 第 2 回 京都大学大学院人間・環境学研究科 修士課程入学試験問題

## 専門試験

科目名：041.認知・行動・健康科学

(注意) 複数の設問がある場合、解答は、設問（ローマ数字の I、II……）ごとに別の解答用紙を用いること。  
ただし、設問の中で解答用紙に関して別途指定がある場合は、それに従うこと。

問 3 【上田研究室の専門関連問題】

近年、生成 AI (generative artificial intelligence) を用いて心理実験の刺激を作成したり、生成 AI に心理実験の課題を遂行させてその成績を人間の参加者と比較したりする研究が増えつつある。この動向について、下記の問にすべて答えよ。

- (1) このように生成 AI を研究計画に組み込んだ研究のうち、査読 (peer review) を経て出版されている論文を 1 つ取り上げ、その詳細 (目的・方法・結果・考察・得られた知見) を述べよ。必要ならば図を使ってもよい。
- (2) ヒトのこころを理解するための理論的枠組みを構築するという観点から、①生成 AI を心理実験の計画に組み込むことの利点、②想定される批判、③それらの批判に対処する方法について述べよ。なお、生成 AI そのものの発展や法的・倫理的観点には立ち入らず、心理学の理論的枠組みの観点から論じること。

問 4 【小村研究室の専門関連問題】

下記の問にすべて答えよ。

- (1) ある時刻のニューロンのスパイクは、発生するか否かの事象なので、ベルヌーイ試行 (Bernoulli trial) とみなすことができる。ベルヌーイ試行、二項分布 (binomial distribution)、ポアソン分布 (Poisson distribution) の関係を、式と図を使って、説明せよ。
- (2) 複数回、同一の感覚刺激が入力した場合、脳は、毎試行、同じような応答を示すわけではない。その原因と、機能的意義について、説明せよ。

問 5 【月浦研究室の専門関連問題】

ヒト認知神経科学 (cognitive neuroscience) について、下記の問にすべて答えよ。

- (1) 近年の研究において、前方側頭葉皮質 (ATL: anterior temporal lobe) はどのような役割を果たしていると考えられているのかについて、2 つ以上の仮説を提示して、先行研究の例も交えながら説明せよ。
- (2) ヒトを対象とした機能的磁気共鳴画像 (fMRI: functional magnetic resonance imaging) では、複数の個人から得られたデータを統計解析 (statistical analysis) する前に、複数のステップによる前処理 (preprocessing) をすることが多い。近年の研究では、この前処理に際して共通のプロトコル (protocol) を採用する動きが出ているが、このような共通のプロトコルを採用することの利点と欠点について説明せよ。

令和 8 年度 第 2 回 京都大学大学院人間・環境学研究科 修士課程入学試験問題

## 専門試験

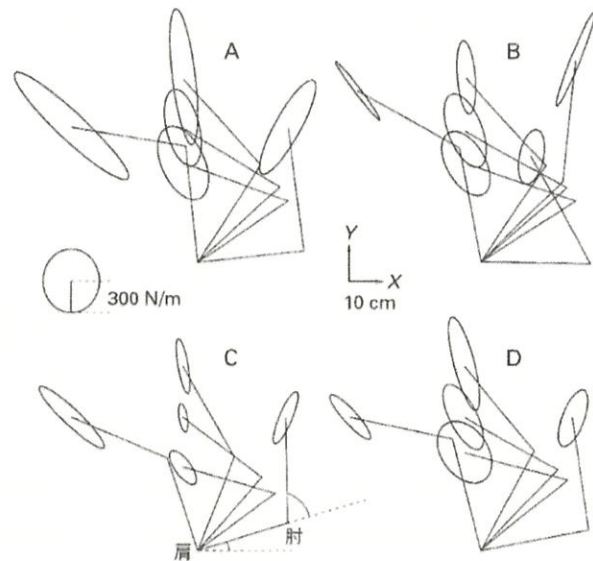
科目名：041.認知・行動・健康科学

(注意) 複数の設問がある場合、解答は、設問 (ローマ数字の I、II……) ごとに別の解答用紙を用いること。  
ただし、設問の中で解答用紙に関して別途指定がある場合は、それに従うこと。

## 問 6 【神崎研究室の専門関連問題】

下記の問に答えよ。

右図は、4 人の被験者 (A~D) が異なる姿勢をとった状態で、手先に対して二次元平面内 (two-dimensional plane) の様々な方向に同じ大きさの変位を与えたときに生じた力の大きさと方向を、剛性楕円 (stiffness ellipse) として表したものである。図中の折れ曲がった線は右腕の上腕部 (upper arm) および前腕部 (forearm) を示し、その起点は肩関節 (shoulder joint) を表す。また、各剛性楕円の中心は手先位置を示している。剛性楕円の長軸 (major axis) および短軸 (minor axis) は、それぞれの方



方向に変位を与えたときに発生する力の大きさを表しており、楕円の縦横比は手先剛性の方向依存性 (direction dependence) を反映している。

右図をもとに、手先の剛性特性 (endpoint stiffness characteristics) について説明せよ。その際、①手先の変位 (displacement) と力 (force) の関係を数式で示すこと、②剛性楕円と剛性行列 (stiffness matrix) の固有ベクトル (eigenvector) との対応関係を説明すること、③剛性楕円の形状および向きの違いから、運動制御 (motor control) における単関節筋 (mono-articular muscles) および二関節筋 (bi-articular muscles) の役割、ならびに個人差 (individual differences) について言及すること。

## 問 7 【久代研究室の専門関連問題】

競技者 (athlete) の運動パフォーマンス (motor performance) と加齢 (aging) の関係について、下記の間

に答えよ。  
近年、スポーツ (sports) の各競技種目 (competition event) において、一般的に考えられる競技ピーク年齢 (peak athletic age) を過ぎた後も一線で活躍し続ける競技者を多く目にするようになった。一線の競技者達はいかにしてこれを実現しているのだろうか。具体的な競技種目を 1 つ挙げ、加齢に伴って変化する運動機能 (motor function)、感覚機能 (sensory function) に関連付けるとともに、その競技種目に必要とされる認知機能 (cognitive function)、その他の考慮すべき要素も踏まえて論ぜよ。

令和 8 年度 第 2 回 京都大学大学院人間・環境学研究科 修士課程入学試験問題

## 専門試験

科目名：041.認知・行動・健康科学

(注意) 複数の設問がある場合、解答は、設問（ローマ数字のⅠ、Ⅱ……）ごとに別の解答用紙を用いること。  
ただし、設問の中で解答用紙に関して別途指定がある場合は、それに従うこと。

問 8 【萩生研究室の専門関連問題】

身体運動の制御と学習 (motor control and learning) について、下記の問題にすべて答えよ。必要であれば図を用いてもよい。

- (1) 熟達したダーツ競技者 (expert darts player) であっても、ダーツを毎回全く同じ位置に命中させることはできない。このように、ヒトの運動が試行 (trial) ごとにばらつき (variability) を示す理由として、どのような要因 (factor) があると考えられているか。以下のキーワードをすべて使って、運動制御の観点から説明せよ。  
[キーワード：信号強度依存性ノイズ (signal dependent noise)、感覚ノイズ (sensory noise)、誤差修正 (error correction) ]
- (2) 運動のばらつきは、運動の正確性 (accuracy) や再現性 (consistency) を低下させる要因として捉えられることが多い。一方で、ばらつきは運動学習において機能的な役割 (functional role) を果たす可能性も指摘されている。
  - ① 運動のばらつきがどのように学習に寄与すると考えられるかについて説明せよ。
  - ② ばらつきを考慮・活用した運動指導法 (coaching method) を 1 つ提案し、その指導法が運動学習にとって効果的であると考えられる理由を、運動制御・運動学習の理論と関連づけて説明せよ。

問 9 【船曳研究室の専門関連問題】

下記の問題にすべて答えよ。

保護者の就労状況と育児不安との関係に関するアンケート調査を、関連しうる他の要因も検討しながら行いたい。

- (1) あなたが重要と思う観点を中心に、以下の点を含んだ調査計画を立てよ。
  - 倫理的な手続き (ethical procedures)
  - 調査対象者 (participants)
  - 調査方法 (survey methods)
  - データ管理 (data management)
  - 分析手法 (analysis methods)
- (2) 予想される結果 (expected results) とその考察を記載せよ。
- (3) (2)を踏まえて、保護者の育児不安を軽減するために考えられる対策を述べよ。

令和 8 年度 第 2 回 京都大学大学院人間・環境学研究科 修士課程入学試験問題

## 専門試験

科目名：041.認知・行動・健康科学

(注意) 複数の設問がある場合、解答は、設問 (ローマ数字の I、II……) ごとに別の解答用紙を用いること。  
ただし、設問の中で解答用紙に関して別途指定がある場合は、それに従うこと。

問 10 【江川研究室の専門関連問題】

下記の問にすべて答えよ。解答にあたっては図表を使っても構わない。

- (1) 加齢に伴い骨格筋は、筋量減少 (muscle mass loss) および筋力・機能低下 (decline in muscle strength and function) をきたす。このようなサルコペニア (sarcopenia) やフレイル (frailty) の病態基盤にあると考えられる分子機序 (molecular mechanisms) について、以下のキーワードから 4 つ以上を使って説明せよ。

[キーワード: 同化抵抗性 (anabolic resistance)、オートファジー (autophagy)、小胞体ストレス (endoplasmic reticulum stress)、酸化ストレス (oxidative stress)、糖化ストレス (glycative stress)、炎症老化 (inflammaging)、筋衛星細胞 (muscle satellite cells)、神経筋接合部 (neuromuscular junction) ]

- (2) 骨格筋機能を向上させ、生活習慣病予防 (prevention of lifestyle-related diseases) や介護予防 (prevention of functional disability) につなげるための具体的かつ実践的な介入戦略 (intervention strategy) を、運動トレーニングおよび薬物治療以外の方法で 1 つ提案せよ。また、その介入の有効性を支持する科学的根拠として、関与する主要な細胞内シグナル伝達経路 (intracellular signaling pathways) や制御分子 (regulatory molecules) がどのような挙動を示すと考えられるか説明せよ。

問 11 【藤田研究室の専門関連問題】

次の説明文を読んだうえで、下記の問にすべて答えよ。

糖尿病性腎症 (diabetic nephropathy) をはじめとする慢性腎疾患 (chronic kidney disease: CKD) の重症化予防 (progression prevention) は、腎機能低下の進行抑制を目的として、医療機関での診療に加え、保険者 (insurer)・自治体 (municipality) による対象者抽出 (risk stratification)、受診勧奨 (outreach)、保健指導 (health guidance) を組み合わせて実施される。事業として実効性を高めるためには、医療機関連携 (provider collaboration) と成果評価 (program evaluation) を含む一連のプロセスを理解し、運用可能な形に設計することが求められる。

- (1) 腎症重症化予防を事業として進める際の基本プロセスを、対象者抽出→受診勧奨→保健指導→医療機関連携→成果評価の順に、要点が分かるように説明せよ。
- (2) 「未受診・受診中断 (non-attenders / dropouts)」を支援につなぐ際に起こりやすい課題を 2 つ挙げ、それぞれについて解決の方向性を述べよ。
- (3) 保健指導に際して、PHR (personal health record) を活用した生活・栄養介入 (lifestyle and nutrition intervention) の意義を述べたうえで、具体的な実践プランを 1 つ立案し説明せよ。なお、実践プランには対象者の想定、介入内容、実施方法を含めること。